

---

# XLIII

成瀬衣幌

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

X L I L L

### 【Nコード】

N 7 3 6 1 H

### 【作者名】

成瀬衣幌

### 【あらすじ】

2102年、地球滅亡により月に移住した人類は、月に襲来する人喰い生物「アルデント」に対抗すべく、ある人型兵器を開発する。

2027年、日本やアメリカといった先進国合同で、月面に基地を設営した。人類初の快挙である。

その後、人類は月面に次々と基地を建設。国連月面管理局により区画分けされ、日本は月面の2割をゲット。これは月面開発に大きな功績を残していたことと、当時の首相の活躍による。この首相は、外交が得意であった。

2088年、宇宙から何らかの物体が飛来してきた。よくは分からないが、スペースデブリか何かだろう。みんな、そう思っていた。しかし、3日後、世界は透明なゲル状の物体に覆われた。ロンドンから覆われはじめ、物体飛来から12日目には全世界がゲルと化した。

もちろん、人類は絶滅した。一部を除いて。一部というのは、月面にいた人たち、約六千万人、そして住処がゲルになる前に月に避難した二千万人の計八千万人（うち日本人は三百八十万）である。日本人は月面第一位の人口を誇る。それから、二位アメリカ、三位中国と続く。

そして、月に移住してきた人類に、さらなる不幸が追い討ちをかける。ライバルの襲来である。その名前は、「アルデント」パスタの茹で具合みたいだが、それとはちがう。身長は3メートルほどで、横幅は70センチくらい。人のような形をしている。空も飛べるが、二足歩行もできる。で、何が恐ろしいのか。人を食べるのだ。むしろなんでも食べる、というのが正しいだろうか。建物も食べる。食べないのは自分と月ぐらいのものである。

この物語は、そんな生物と戦う人類の物語である。

2102年。月面居住地域JPN-XA-01-4区画。

月面研究庁（LRA） 地下。

『XLLILL-CENTER』と重々しく書かれた扉。私は、首からかけているICカードを扉右にある機械にタッチし、その後、自分の右手を機械に差し出す。「「CLEAR」」の文字が出た後、機械についている赤く光っていたLEDが緑に色を変える。扉は、開いた。

と同時に、私のかけている眼鏡型ディスプレイが起動する。「「COMPLETE DISPLAY SYSTEM」」文字が浮かび上がった。

私の目の前に、日立製作所謹製のスーパーコンピューターとディスプレイが並んだ空間が現れた。司令センターである。前には超大型の有機ELディスプレイが「「XLLILL SYSTEM」」と表示している。フォントは*Helvetica*だろう。

ここで、XLLILLについて説明しよう。XLLILLは、対アルデント用の人型戦闘装置である。体長3メートル。2094年に開発が日本政府、国連、日立製作所等により開始。2098年テストバージョン『XLLILL-00』が完成し、今年、正式版『XLLILL-01』が導入された。なお、XLLILLの存在は一般人に公開されているが、当月面研究所、XLLILL司令センターのことは明らかにされていない。今日は、その初号機のお披露目の日である。2102年04月11日。二ヶ月に一回月に来襲するアルデントは、今日、はじめてXLLILL-01と戦う。

FILE:00 Prologue (後書き)

どうも、吉芝です。

いやーエヴァとFREEDOMを足して2で割ったような感じとなつてしまいました。

まあ、この作品にはかなりの力を注ぐ予定ですので、ご期待ください！

FILE:01 XLILL-01、お披露目(前書き)

第二話です。

遅くなってしまいました。

おだやかな昼下がり。休憩室。午後一時より開催されるお披露目式典にはまだ時間がある。

私は、庁舎を出たすぐ左の喫茶店に行くことにした。その喫茶店は、初老のコーヒーマスターに詳しい紳士がやっていて、いまやほとんど目に見えないサイフォン式の本格焙煎コーヒーマスターが楽しめた。

「いらっしやい」

ドアを開けると、マスターが出迎えてくれた。「いつもの」というと、マスターは軽く頷き、コーヒーマスターを淹れ始めた。

私は、この喫茶店からの風景が好きだ。地球とは程遠いが、緑が広がり、空には青空が広がっている。そして、ビルも立ち並んでいる。その様子は、まだ地球があったころの新宿のようであった。

物思いに耽っていると、マスターがコーヒーマスターを出してくれた。香りを楽しみ、フレッシュミルクをいれ、カップを持ち、ゆっくりと口に入れた。

持ってきた雑誌（という名の電子図書）を読み終わり、時間も小一時間ほど経ったのでお勘定を済ませ、店を後にした。

月面研究庁に戻り、正装に着替えた後、新宿 日本では、今も地球のころの地名を使っている に向かった。ドアを開け、外に出た。

地下鉄の駅に向かい、早速来た電車に乗り込む。今では、すべてリニアモーター方式である。揺れはなく、車内は清潔感あふれている。

三分ほどで、新宿に着いた。ドアから降りる。今日も新宿は人でごった返している。A1通路を出て、都庁舎へ向かった。今日は都庁舎の隣、都民広場でお披露目の式典が行われる。

都民広場に着き、会場ゲートを抜ける。国民証と招待券をかざし、特別招待席に向かった。

椅子には最新式の小型AODー（Automation Order Device、自動注文装置）が設置されていて、様々な食品や飲料が注文できた。缶コーヒーを頼む、ついでに、眠気覚ましのガムを買った。

上からロボットアームで注文した品がお盆に載せられ降りてきた。受け取り、ICカードにもなっている国民証をかざす。すると、ロボットアームは上昇した。

缶コーヒーを一息に飲んだところで、式典が始まった。

司会のアナウンスが流れ、月面研究庁や防衛省の対アルデント兵器が次々と登場する。昔ながらの戦車や、XLEILLの後方支援を担当するAI搭載の国産無人戦闘機など多種多様の兵器が登場した後、ファンファーレが鳴り響き、いよいよ専属パイロットの橋本君が乗ったXLEILL-01が登場した。会場は一気に忙しく、うるさくなり、あまりのやかましさに顔を顰めてしまった。

XLEILL-01は様々なパフォーマンスを披露し、奥の大型ディスプレイにXLEILL-01の改良点が表示された。公開できないものもあるが、基本的な改良点がムービーと同時に列挙されていた。

そろそろ終わるな、と思い、右手首一（私は左利き）につけた腕時計をのぞく。すると、右耳につけたイヤホンからディスプレイが出てきて、右目の前に現れた。表示された文章は、アルデントの出現を示すものだった…

思わず声を出してしまったが、平常心を心がけつつアナウンスを聞く。

「司令！大変です！アルデントが、新宿に来襲しました！」

「えっ！どうする、XLEILL-01ー（XLEILL-01の略称、クシルと発音する）を出すか!？」

「それしかないでしょう、おそろく」

「会場進行には伝えたか!？」

「別班がただいま知らせています」

「私は司令センターに帰る!少し待て!」

先ほどのAODを使い、エアタクシーを呼ぶ。すぐに来た。AIに行き先を伝え、直行する。

すぐさま、ICカードをかざしてエアタクシーを出る。ドアに走り、地下12階にある司令センターに向かった。

To Be Continued . . .

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7361h/>

---

XLILL

2010年10月9日05時22分発行